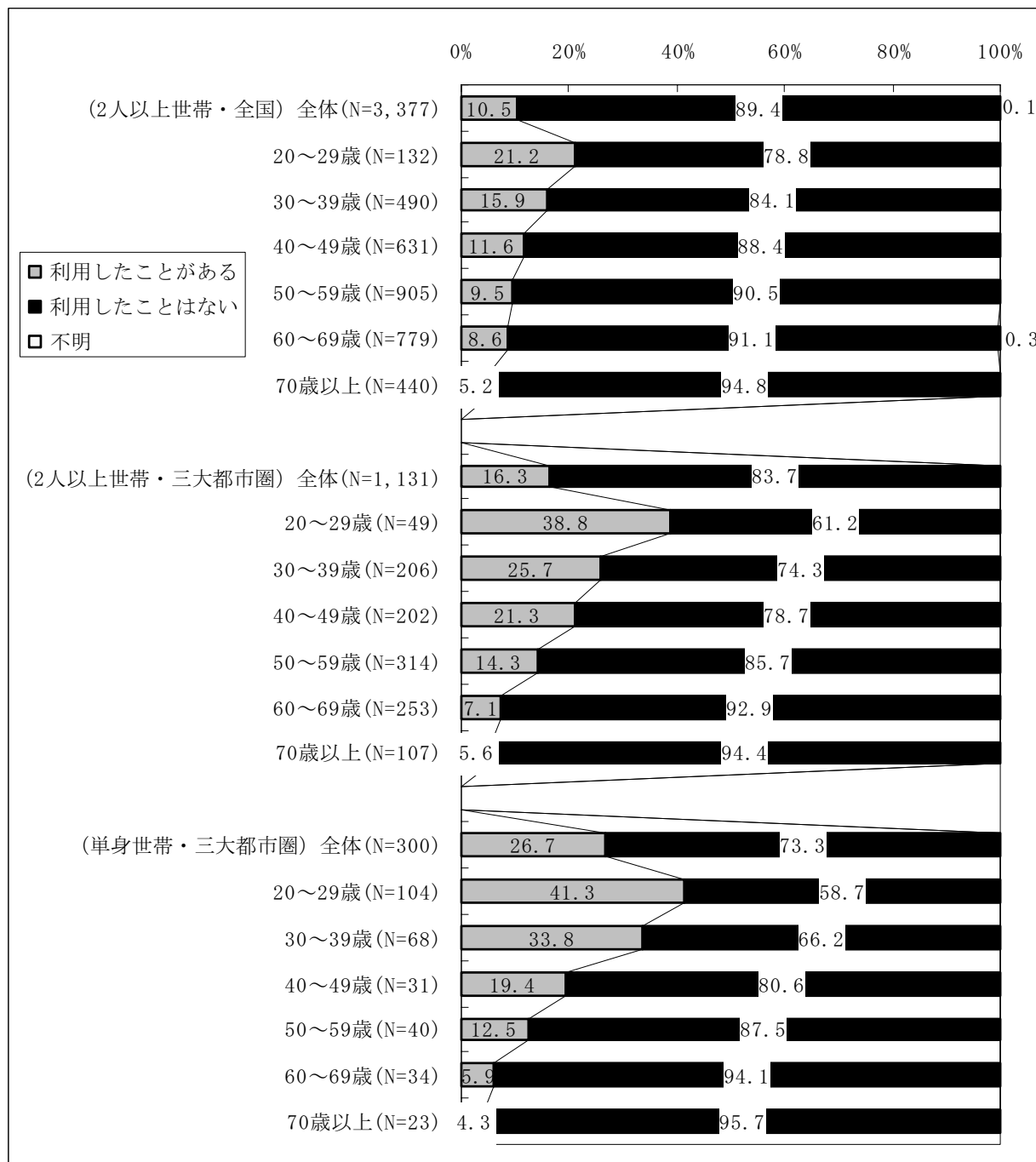


1-5 コンビニATMの利用

(1) コンビニATMの利用経験の有無（問5-1）

コンビニエンスストアに設置してある金融機関のATM（コンビニATM）の利用経験の有無を、全国2人以上世帯、三大都市圏2人以上世帯、三大都市圏単身世帯について、それぞれ世帯主年齢階級別に分析した。

いずれも20歳代の利用率が高く、年代が上がるにつれて低下しており、60歳代以上の利用率は一桁となっている。



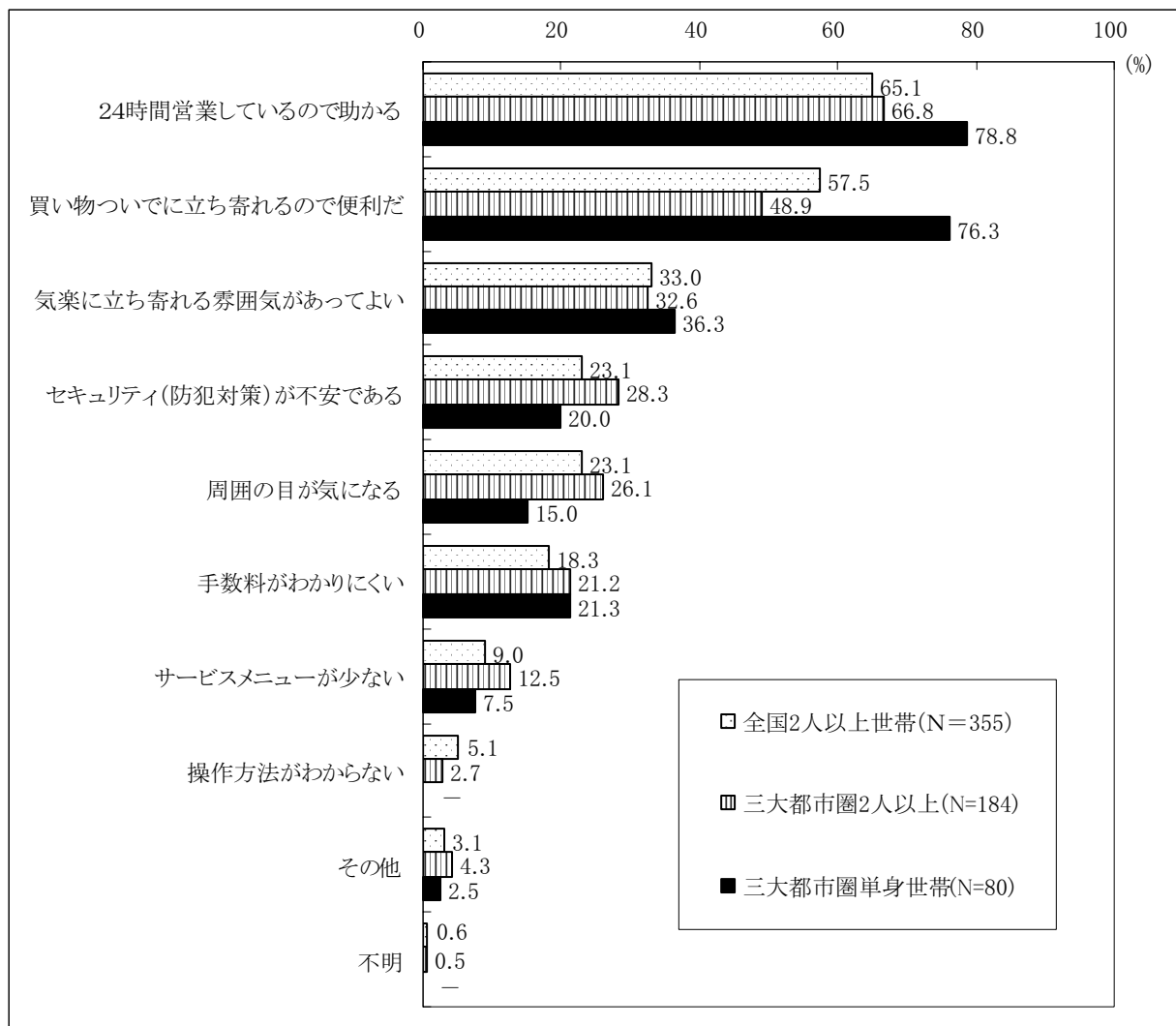
(2) コンビニATMを利用した感想（問5-2 複数回答）

「コンビニATMを利用したことがある」世帯のコンビニATM利用の感想については次のとおりである。

肯定的な感想としては、全国2人以上世帯では、「24時間営業しているので助かる」（65.1%）の回答比率が最も高く、以下、「買い物ついでに立ち寄れるので便利」（57.5%）、「気楽に立ち寄れる雰囲気があってよい」（33.0%）となっている。

否定的な感想としては、全国2人以上世帯で「セキュリティ（防犯対策）が不安である」、「周囲の目が気になる」（各23.1%）、「手数料がわかりにくい」（18.3%）となっている。

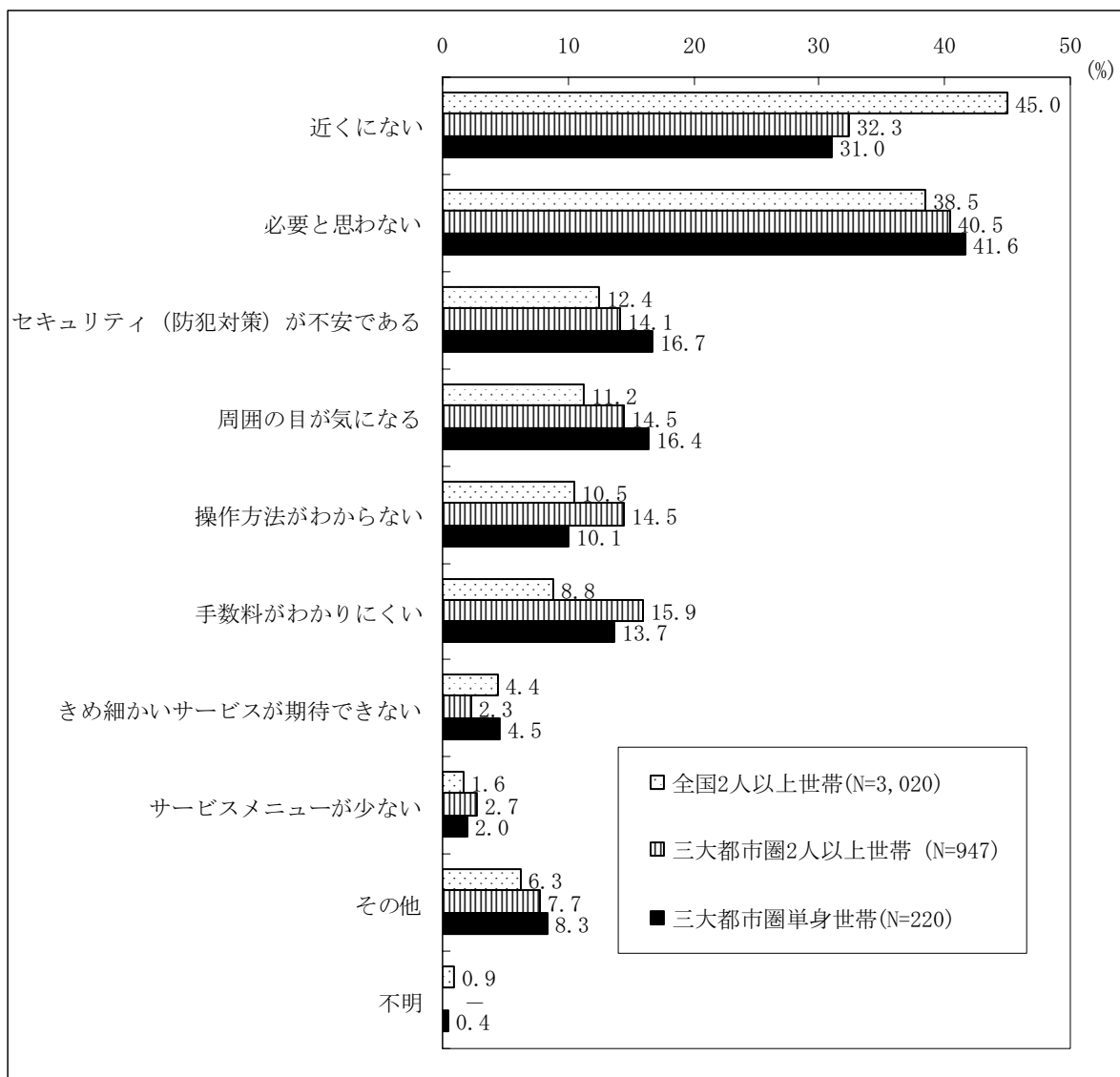
単身世帯は、三大都市圏2人以上世帯の調査結果と比較すると、「24時間営業しているので助かる」（78.8%）、「買い物ついでに立ち寄れるので便利」（76.3%）の回答比率がそれぞれ12ポイント、27.4ポイント高くなっている。一方、「セキュリティ（防犯対策）が不安である」（20.0%）、「周囲の目が気になる」（15.0%）はそれぞれ8.3ポイント、11.1ポイント低くなっている。



(3) コンビニATMを利用しない理由（問5-3 複数回答）

「コンビニATMを利用したことがない」世帯の利用しない理由については次のとおりである。全国2人以上世帯では、「近くにない」（45.0%）の回答比率が高く、以下、「必要とは思わない」（38.5%）、「セキュリティ（防犯対策）が不安である」（12.4%）、「周囲の目が気になる」（11.2%）、「操作方法がわからない」（10.5%）の順となっている。

単身世帯、三大都市圏2人以上世帯では、全国2人以上世帯と比較すると、「近くにない」の回答比率は低く、「必要とは思わない」がトップとなっている。



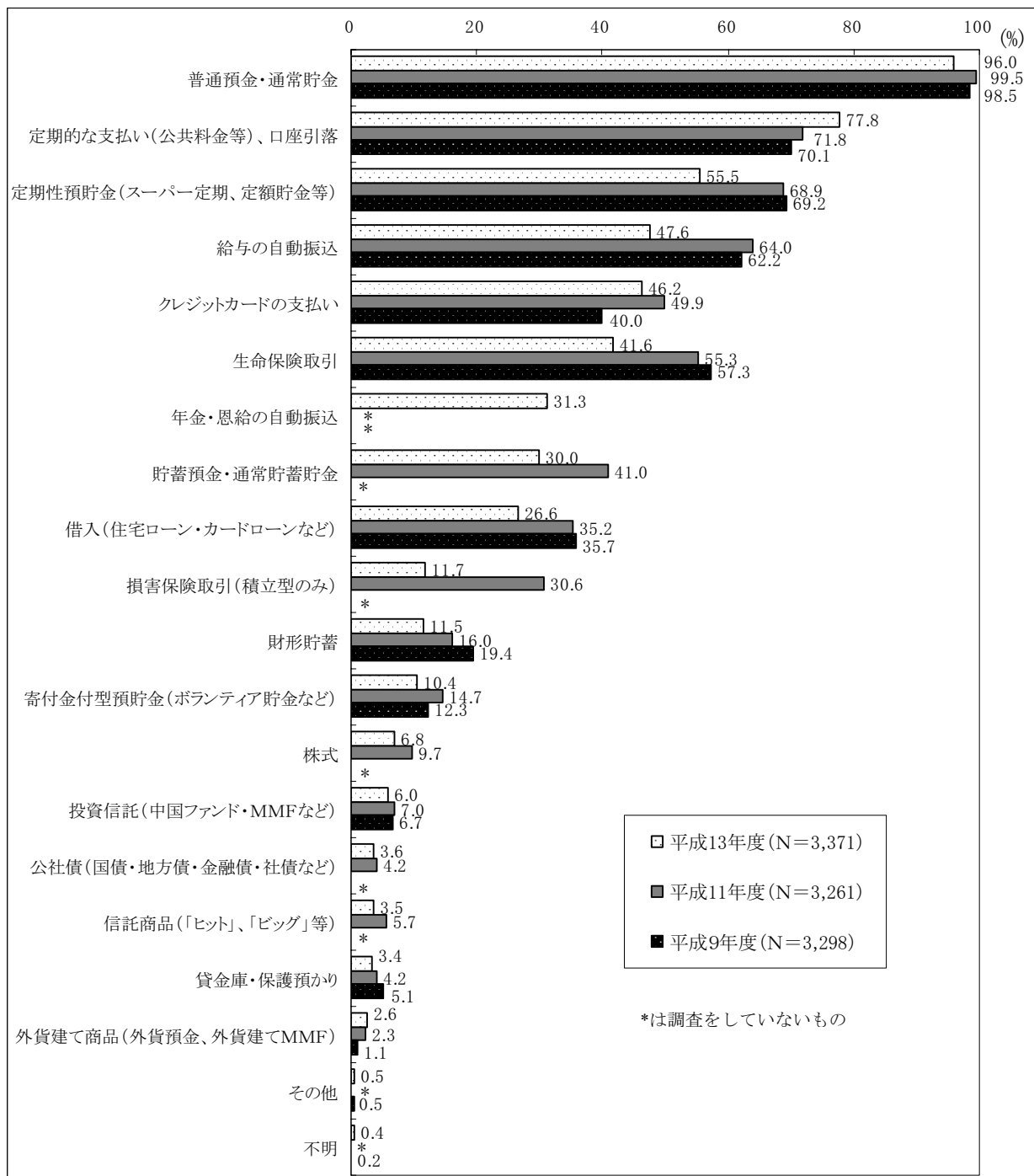
1-6 金融機関で行っている取引

(1) 現在、金融機関で行っている取引（問6-1 複数回答）

(ア) 2人以上世帯

現在利用している金融機関で行っている取引としては、「普通預金・通常預金」(96.0%)の回答比率が高く、以下、「定期的な支払い(公共料金等)口座引落」(77.8%)、「定期性預貯金(スーパー定期、定額貯金など)」(55.5%)、「給与の自動振込」(47.6%)の順となっている。

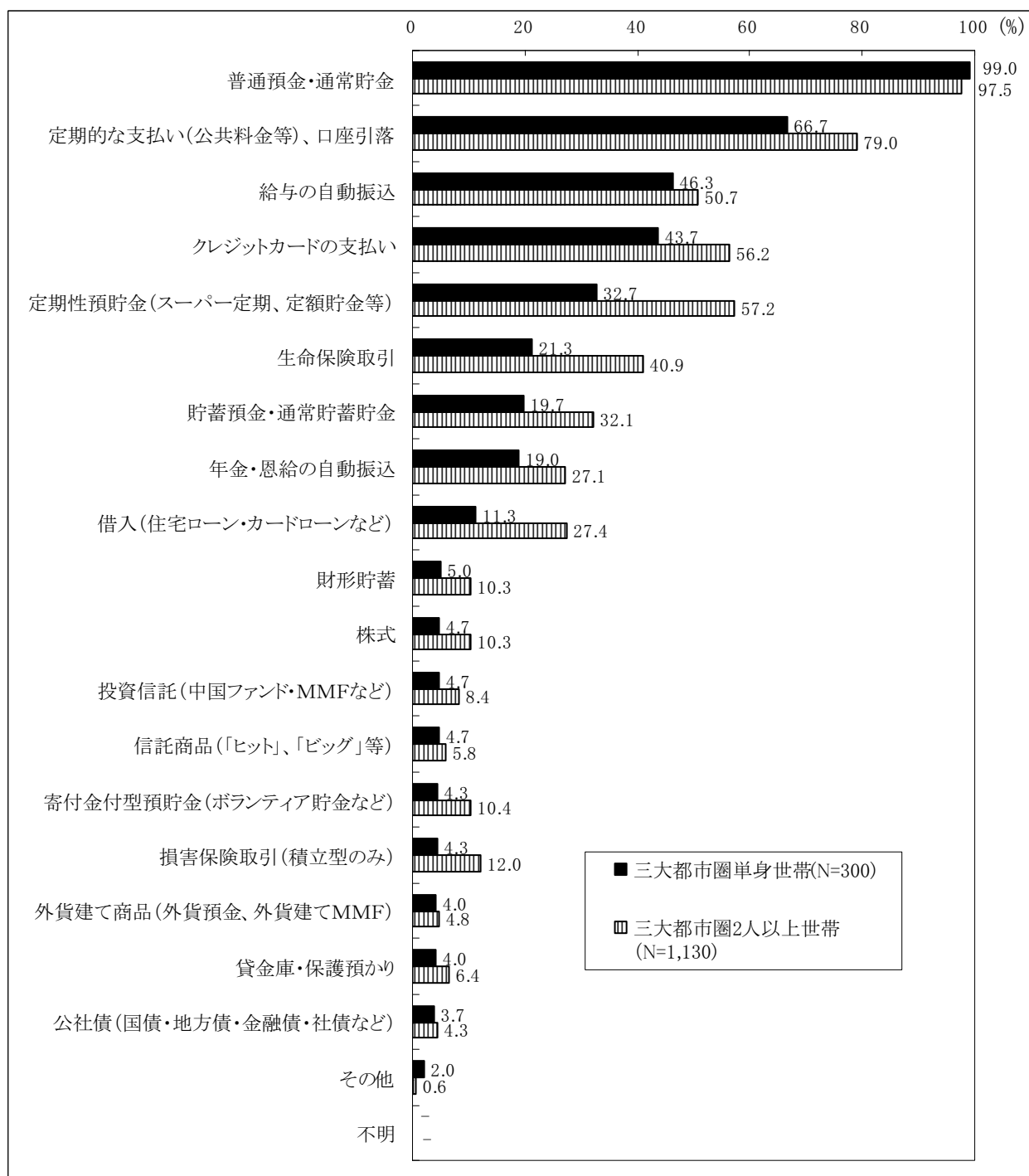
過去3回の調査結果と比較すると、「定期的な支払い(公共料金等)、口座引落」の回答比率は上昇し、「定期性預貯金(スーパー定期、定額貯金など)」、「給与の自動振込」、「生命保険取引」、「貯蓄預金、通常貯蓄貯金」、「損害保険取引(積立型のみ)」などは低下している。



(イ) 単身世帯

単身世帯について、現在利用している金融機関で行っている取引としては、「普通預金・通常預金」(99.0%)の回答比率が際立って高く、以下、「定期的な支払い(公共料金等)、口座引落」(66.7%)、「給与の自動振込」(46.3%)、「クレジットカードの支払い」(43.7%)、「定期性預貯金(スーパー定期、定額貯金など)」(32.7%)の順となっている。

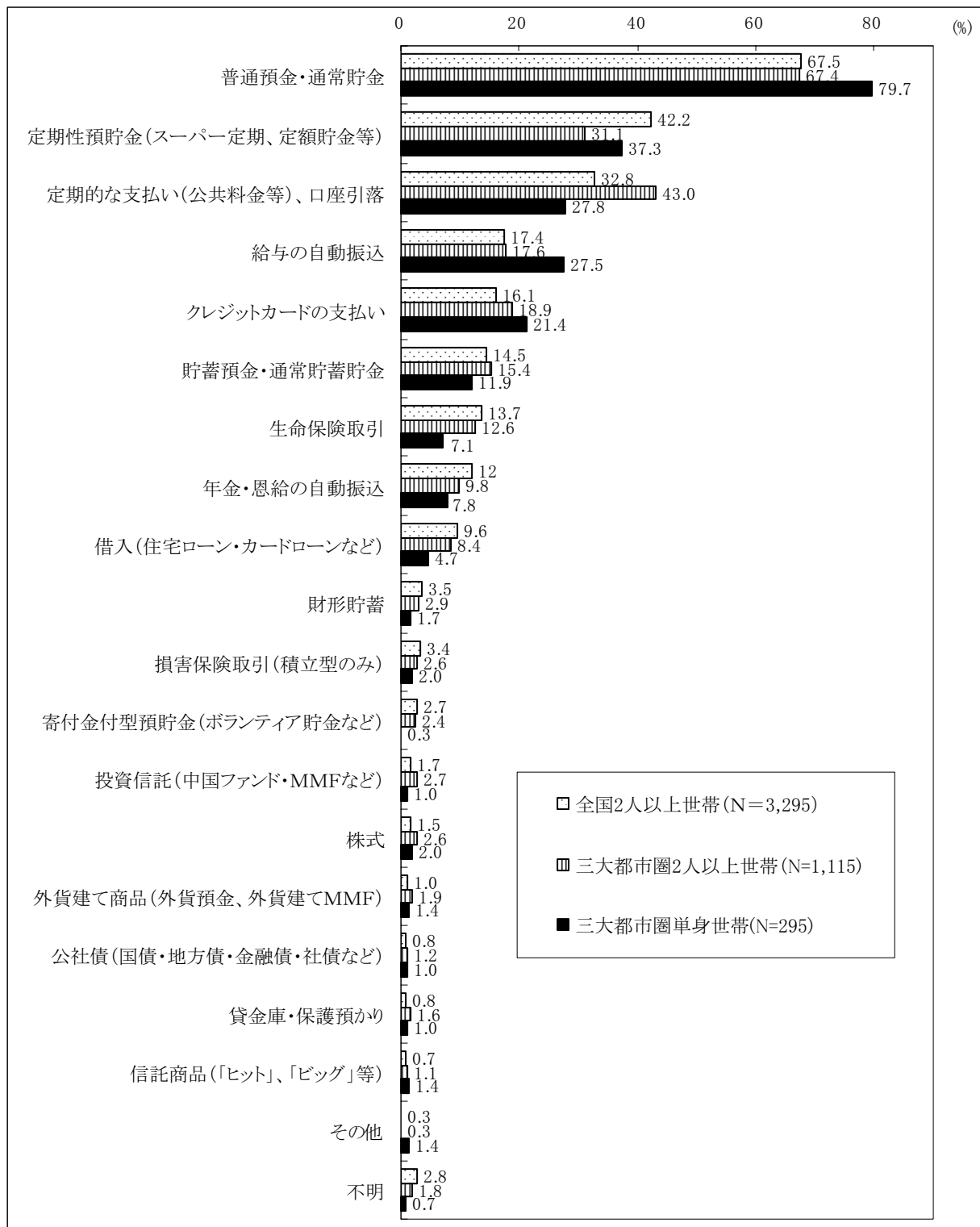
三大都市圏2人以上世帯の調査結果と比較すると、「普通預金・通常預金」を除くすべての取引で、単身世帯の回答比率が下回っている。



(2) 預貯金額が最も多い金融機関との取引 (問6-2 複数回答)

預貯金額が最も多い金融機関で行っている取引について、全国2人以上世帯では「普通預金・通常預金」(67.5%)の回答比率が高く、以下、「定期性預貯金(スーパー定期、定額貯金など)」(42.2%)、「定期的な支払い(公共料金等)、口座引落」(32.8%)、「給与の自動振込」(17.4%)、「クレジットカードの支払い」(16.1%)の順となっている。

単身世帯では、三大都市圏2人以上世帯の調査結果と比較して、「普通預金・通常貯金」、「給与の自動振込」などの回答比率が高く、「定期的な支払、口座引落」が低くなっている。

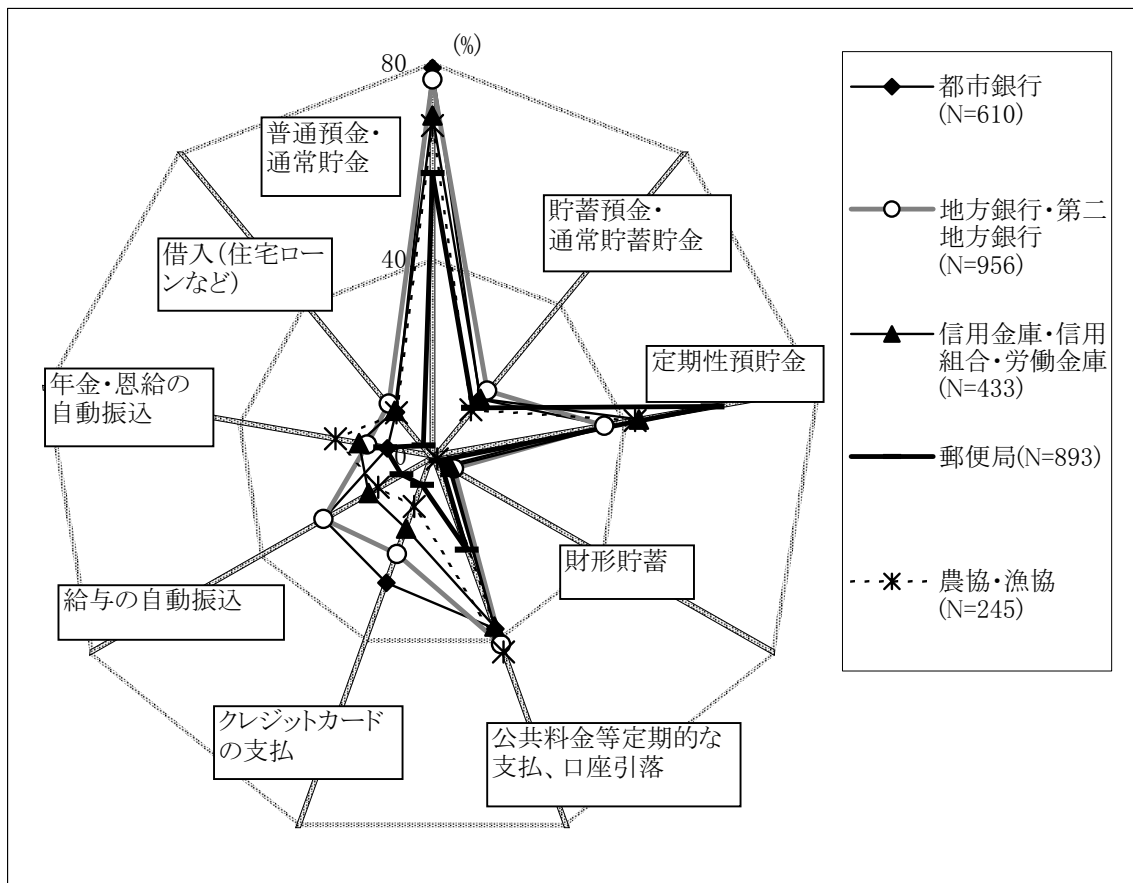


(3) 「預貯金額が最も多い金融機関」別「現在行っている取引」(問6-2と問1-3-1のクロス)

全国2人以上世帯について、「預貯金額が最も多い金融機関」ごとに「現在行っている取引」を分析した。

「郵便局」に最も預貯金額が多い世帯の取引については、他の金融機関に最も預貯金額が多い世帯と比べて、「定期性預貯金」(57.9%)の回答比率が高く、「普通預金・通常貯金」(57.6%)、「公共料金等自動引落」(20.3%)、「クレジットカードの支払」(6.3%)、「給与の自動振込み」(7.3%)などは低くなっている。

郵便局以外の金融機関に最も預貯金額が多い世帯の取引では、「普通預金・通常貯金」の回答比率が最も高く、「地方銀行・第二地方銀行」については76.7%、「都市銀行」については79.0%、「信用金庫・信用組合・労働金庫」については69.3%、「農協・漁協」については67.3%となっている。

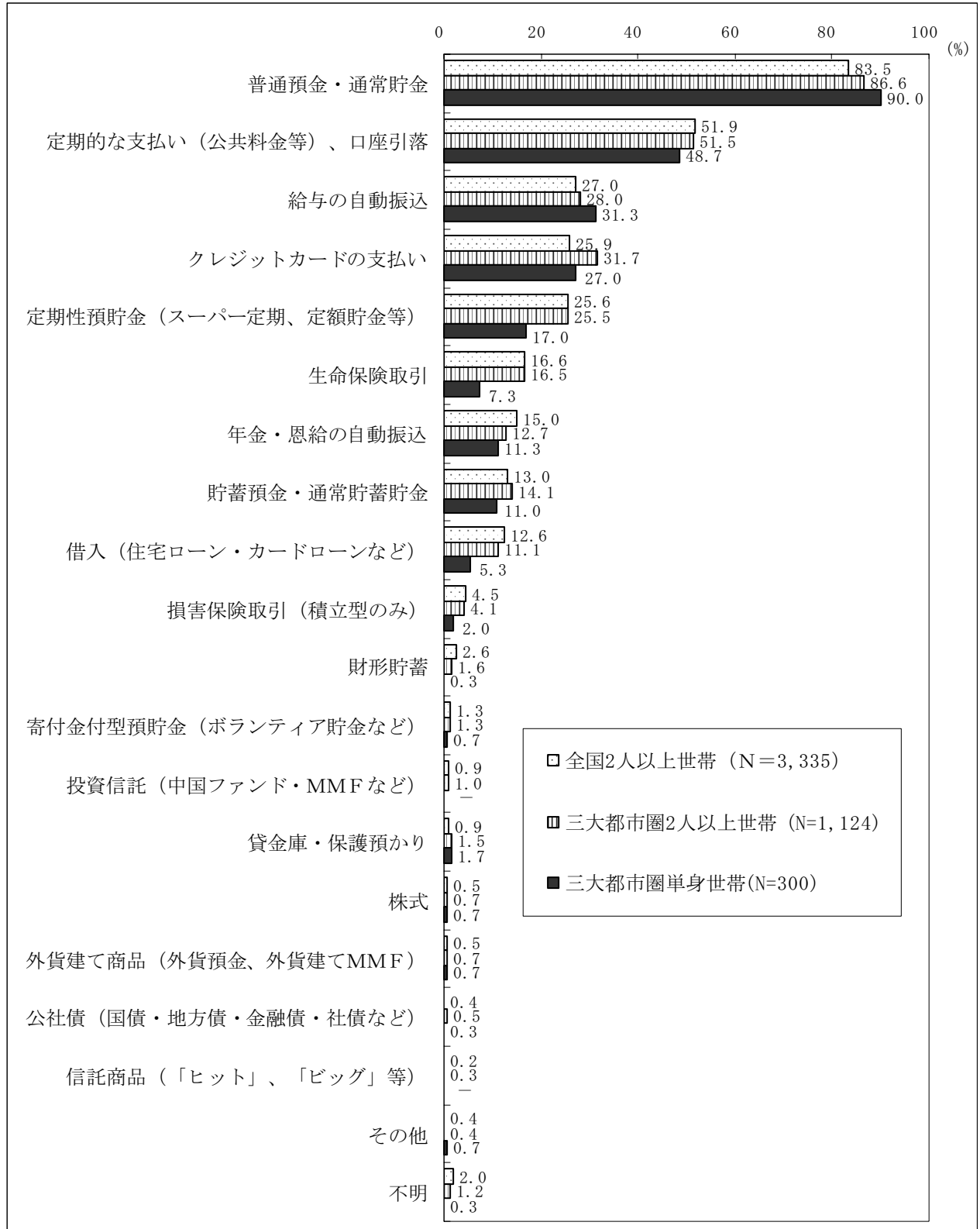


(全国2人以上世帯)

(4) 利用回数が最も多い金融機関との取引 (問6-3 複数回答)

利用回数が最も多い金融機関で行っている取引について、全国2人以上世帯では、「普通預金・通常貯金」(83.5%)の回答比率が最も高く、以下、「定期的な支払い(公共料金等)、口座引落」(51.9%)、「給与の自動振込」(27.0%)、「クレジットカードの支払い」(25.9%)、「定期性預貯金」(25.6%)の順となっている。

単身世帯は、三大都市圏2人以上世帯の調査結果と比較すると、あまり傾向は変わらない。

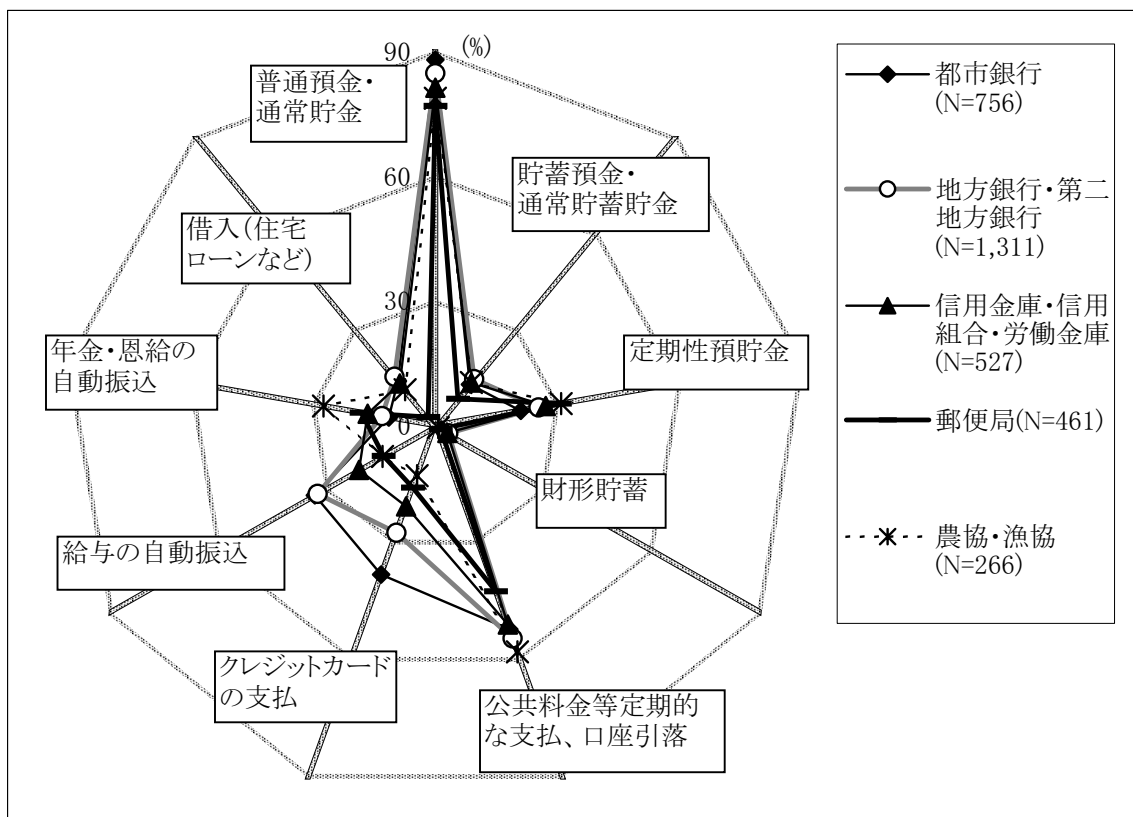


(5) 「利用回数が最も多い金融機関」別「現在行っている取引」（問6-3と問1-3-2のクロス）

全国2人以上世帯について、「利用回数が最も多い金融機関」ごとに「現在行っている取引」を分析した。

「郵便局」を最も回数多く利用する世帯の取引については、他の金融機関を最も回数多く利用する世帯と比べて、「定期性預貯金」(30.4%)の回答比率が高く「普通預金・通常貯金」(77.0%)、「公共料金等自動引落」(42.5%)、「クレジットカードの支払」(15.8%)、「給与の自動振込み」(14.5%)などは低くなっている。

郵便局以外の金融機関に最も預貯金額が多い世帯の取引では、「普通預金・通常貯金」の回答比率が最も高く、「地方銀行・第二地方銀行」については84.9%、「都市銀行」については88.1%、「信用金庫・信用組合・労働金庫」については81.4%、「農協・漁協」については78.9%となっている。



(全国2人以上世帯)

(6) 口座引落等の利用件数が最も多い金融機関との取引（問6-4 複数回答）

口座引落等の利用件数が最も多い金融機関との取引について、全国2人以上世帯では、「普通預金・通常貯金」(74.6%)の回答比率が最も高く、以下、「定期的な支払い(公共料金等)」、口座引落」(61.1%)、「クレジットカードの支払い」(27.1%)、「給与の自動振込」(25.2%)、「定期性預貯金(スーパー定期、定額貯金など)」(22.1%)、「生命保険取引」(17.5%)の順となっている。

単身世帯は、三大都市圏2人以上世帯の調査結果と比較すると、あまり傾向は変わらない。

